目白大学　健康科学研究
第８号　2015年　43－52

目白大学大学院看護学研究科「コミュニティ看護学分野」の教育の現状と課題

堤千鶴子　吉田由美　安齋ひとみ　風間眞理　糸井志津乃
西方毅　山田秀樹　刀根洋子　原田勝利　川田智恵子

（Chizuko TSUTSUMI Yumi YOSHIDA Hitomi ANZAI Mari KAZAMA Shizuno ITOI
Tsuyoshi NISHIKATA Hideki YAMADA Yoko TONE Katsutoshi HARADA Chieko KAWATA）

【要約】

《目的》目白大学大学院看護学研究科のコミュニティ看護学分野の教育の現状と課題を明らかにする。

《方法》目白大学大学院看護学研究科設置準備委員会資料、目白大学大学院ホームページ、大学院内の各種資料等を用いた。また、本分野の全教員による検討会を実施した。研究期間は2014年4月～9月である。

《結果》コミュニティ看護学分野は地域および施設内に存在するコミュニティを対象とした看護分野である。看護学の視点から多様な現象を学際的成果に基づいて分析・考察し、看護活動の改善に貢献することをめざしている。中心概念はヘルスプロモーションである。担当教員の看護専門分野は多様であり、協働して教育に当たっている。開設から現在までの５年間の修士論文は17編である。コミュニティを構成している人々の特徴に関する研究が9編と多く、看護活動や支援活動に関する研究4編、連携およびシステムづくりに関する研究4編であった。健康にかかわるコミュニティの創生に関する研究はなかった。

《結論》連携およびシステムづくりと健康にかかわるコミュニティの創生はコミュニティ看護学分野の特徴的で重要な研究課題であり、充実させるために教育内容や教育方法を検討していきたい。担当教員は多様な看護分野等の専門を生かし、中心概念を基に学際的な指導を今後とも積極的に行い、院生の指導を通して、看護活動の改善に貢献していきたい。

キーワード：コミュニティ看護学分野　大学院看護学研究科　教育課程　修士論文　ヘルスプロモーション

Ⅰ．はじめに

目白大学大学院看護学研究科（修士課程）は2009年４月に目白大学の第３のキャンパスとなる国立病院機構Ａ病院の敷地内の和光キャンパスに開設され、2014年３月で５年を経過した。本研究科は看護マネジメント分野、コミュニティ看護学分野、ウィメンズヘルス看護学分野の３つの分野で構成されている。

コミュニティ看護学分野の発足の背景には医療制度改革による医療費の削減や在院日数の減少により、退院して地域で病気と共に暮らす人々が急増したことや、寿命の延伸などから、保健医療福祉の充実が求められていたことが挙げられる[1)]。折しも、Ａ病院を中心とした地域保健医療システム「保健医療村」の構想はこのような社会に貢献できる人材育成を目指す本研究科にとって力強い後押しとなった[1)]。これらを踏まえて、コミュニティ看護学分野は地域で生活するあらゆる発達段階の人々の健康の支援に関する分野とした

つつみちづこ：目白大学大学院看護学研究科
あんざいひとみ：目白大学大学院看護学研究科
いといしづの：目白大学大学院看護学研究科
やまだひでき：目白大学大学院看護学研究科
はらだかつとし：元目白大学大学院看護学研究科・茨城県立あすなろの郷病院
かわたちえこ：元目白大学大学院看護学研究科・和歌山県立医科大学大学院
よしだゆみ：目白大学大学院看護学研究科
かざまり：目白大学大学院看護学研究科
にしかたつよし：目白大学大学院看護学研究科
とねようこ：目白大学大学院看護学研究科

[1]。特に支援の必要な小児、高齢者、精神疾患や障がいを持ちながらコミュニティで生活する人々、およびその家族への支援のための実践研究を行うことを目的とした[1]。発足以来、５年を経過し、コミュニティ看護学分野の教育は実績を積み、改善してきている。そこで、本研究では目白大学大学院看護学研究科のコミュニティ看護学分野の教育の現状と課題を明らかにすることを目的とした。

研究方法として、目白大学大学院看護学研究科設置準備委員会資料[1]、目白大学大学院ホームページ[2]、目白大学大学院入学案内[3]、目白大学大学院看護学研究科院生便覧[4] およびシラバス[5] 等の資料等を用いた。また、コミュニティ看護学分野全教員による検討会（６回開催）で意見交換し、コミュニティ看護学分野での教育についての考え方の合意形成を行った。研究期間は2014年４月～９月である。

Ⅱ．看護学研究科（修士課程）の教育理念・目的

看護学研究科（修士課程）の教育理念と目的は表１に示すとおりである。特に、看護の高度実践能力、看護科学を創造する研究能力、コミュニティベイスドケア（Community Based Care）の開発、専門職業人としての自律とキャリア開発を教育研究上の目的としている[4]。

教育目的を達成するためのカリキュラムは共通科目群と専門科目群に大別されている。カリキュラムは表２に示したとおりである。なお、院生の在学期間は２年間、又は長期履修生の場合は３年間である。

Ⅲ．コミュニティ看護学分野の考え方

１．コミュニティ看護学分野の目的

コミュニティ看護学分野の教育目的は表１に示すとおり、「研究科の教育目的の上に、本分野では地域保健医療福祉システムの推進とヘルスプロモーションをリードし、協働できる人材を育成する。」[4] である。そして、看護学の視点から多様な現象を学際的成果に基づいて分析・考察し看護活動の改善に貢献することをめざしている。具体的にはコミュニティで生活する人々とその家族への支援のほか、地域の諸機関における看護職の役割について研究している。

２．コミュニティ看護とは

目白大学大学院看護学研究科で標榜しているコミュニティ看護とは、「地域および施設内に存在するコミュニティを対象とした看護」[6] である。社会学者のMacIver, M R.[7] は「コミュニティは基礎的な共同生活の条件をともにする、ある独自な成果をもった共同生活の範囲であり、ある人が包括的に生活できるような、そして社会生活の全体が見い出されるような集団であって、その基礎標識は地域性と共同意識である」[8] とし、地域性と共同意識を強調している。筆者らは基本的にはこの定義に基づいてコミュニティを考えている。コミュニティは地域・地理・行政区などの空間的な広がりをさすだけでなく、人びとの社会的相互作用や同属意識、共同体の意味も含まれる。また、植村[9] によれば、コミュニティ心理学では「地域社会」に留まらず、学校や会社、病院、施設、あるいは、その下の単位であるクラス、職場、病棟など、さらには、患

表１　目白大学大学院看護学研究科(修士課程)の教育理念・目的とコミュニティ看護学分野の教育目的

目白大学大学院看護学研究科(修士課程)の教育理念・目的
医療の高度化、疾病構造の変化、少子高齢化など、社会の健康ニーズは増大し多様化している。これらの状況に応えられる、高い能力をもった看護の専門職業人を養成することを目的としている。特に、看護の高度実践能力、看護科学を創造する研究能力、コミュニティベイスドケアの開発、専門職業人としての自律とキャリア開発を教育研究上の目的としている。
コミュニティ看護学分野の教育目的
研究科の教育目的のもとに、本分野では地域保健医療福祉システムの推進とヘルスプロモーションをリードし、協働できる人材を育成する。

備考：文献４）より引用

者の会などもコミュニティとしている。コミュニティ看護もこの範囲を包含するものと考えている。コミュニティは何らかの共通のアイデンティティをもつ集団とも言える概念である。

３．コミュニティ看護学分野の考え方

コミュニティ看護学分野の中心概念は、上述のコミュニティ看護学分野の教育目的の中に示されているヘルスプロモーションである。ヘルスプロモーションはWHO（世界保健機関）が1986年のオタワ憲章において提唱した新しい健康観に基づく21世紀の健康戦略で、「人々が自らの健康とその決定要因をコントロールし、改善することができるようにするプロセス」と定義されている[10)]。目標実現のための活動方法として、５つの活動（①健康的な公共政策づくり　②健康を支援する環境づくり　③地域活動の強化　④個人技術の開発　⑤ヘルスサービスの方向転換）と活動を成功させるための５つのプロセスとして、①唱道（advocate）②投資（invest）③能力形成（build capacity）④規制と法制定（regulate and legislate）⑤パートナー（partner）を挙げている[10)]。

この中心概念「ヘルスプロモーション」に基づき、看護学を構成する概念の１つである「人間」をコミュニティ看護学分野においては「家庭すなわち地域で生活していることが本来の姿であるという認識に立脚し、個人、集団（家族、グループ、組織、地域）として捉え、自らの健康とその決定要因をコントロールし、改善できる可能性をもっている存在」と考えている。

コミュニティ看護学分野では地域看護学、在宅看護学、小児看護学、成人看護学、老年看護学、精神看護学、そして心理学を専門とする教員が所属して教育に当たっている。各院生はこれらの領域での専門性を高めるのみならず、これらの領域の知見を活かし、学際性を大事にした研究を行っている。2014年度におけるコミュニティ看護学分野担当教員の専門分野は地域看護学１名、小児看護学２名、成人看護学１名、老年看護学・在宅看護学１名、精神看護学１名、心理学（発達心理学、認知心理学）１名の合計７名である。特論と演習を分担しており、特別研究（修士論文指導）については、各院生に対して、担当指導教員の他に分野の教員全員による全体指導時間（分野合同ゼミ）を年数回設けて、学際的指導を行っている。このように、コミュニティ看護学分野は専門分野が異なる教員が在籍しチームを組み、組織的な指導体制をとっていることが教育方法上の特徴である。

院生は保健師や看護師として活躍している社会人である。それぞれ問題意識をもって入学し、その問題意識に沿って、現場での課題を研究として取り組んでいる。なお、コミュニティ看護学分野の教育内容は保健師資格取得のための養成教育には該当していない。また、現在、コミュニティ看護学分野という名称は国内の大学院では本学の他には本年度（2014年度）開設の１校[11)]である。

コミュニティ看護学研究はコミュニティ、すなわち何らかの共通のアイデンティティをもつ集団を基盤とし、コミュニティの切り口で展開する特徴をもっている。

コミュニティ看護学研究の視点としては、（１）コミュニティを構成している人々の特徴（２）コミュニティにおける看護活動や支援活動（３）コミュニティとコミュニティとの連携およびシステムづくり（４）健康にかかわるコミュニティの創生の４つがある。Hunt, Rのコミュニティベイスドナーシング入門「Introduction to community-based nursing」[12)]では、communityの特徴として、「人々、場、社会システム」[13,14,15)]を挙げている。これに照らすと、コミュニティ看護学研究の視点の（１）は「人々」に、（２）はCommunityの「場」おける活動に、（３）、（４）は「社会システム」に該当しており、妥当な研究上の視点と考えられる。

（１）コミュニティを構成している人々の特徴の研究とは、例えば、入院中の子どもを持つ母親の心理や行動に関する研究、地域で生活している高齢者の人間関係の特徴に関する研究、職場で働く女性の保健行動の研究、ケアに関する高齢者と看護師の認識の違いの研究などである。いわば、コミュニティの人々の健康に関する自己コントロール力に着眼した対象理解のための基礎的な研究と言える。コミュニティとして考えているのは、医療機関、福祉機関、地域（行政）、介護関係機関、教育機関、職場、市民団体、患者団体等に存在する何らかの共通のアイデンティティをもつ集団である。

（２）コミュニティにおける看護活動や支援活動の研究とは、病院、福祉施設や学校等で働いている看護職等による看護活動や他職種による支援活動に関する

研究である。例えば、保育所における看護職の職務に関する研究、高齢者施設での入所者に対する職員の対応に関する研究などである。（1）の基礎的な研究に比べ、実践的な研究と言える。

（3）コミュニティとコミュニティとの連携およびシステムづくりに関する研究とは、病院における在宅療養移行支援、病院と地域の連携などである。例えば、在宅移行期における医師と看護師の共働に関する研究である。この場合、医師で構成されるコミュニティと看護師で構成されるコミュニティとの連携を扱っている。また、福祉施設内の職員の連携、協働に関する研究では、それぞれの職種のコミュニティ相互の連携と協働に関する研究となっている。コミュニティ看護学の研究では、上述のコミュニティ看護学分野の教育目的の中に示されている「地域保健医療福祉システムの推進」に向けて、多様性、文化、地域社会・共同体をシステムとしてとらえる見方を特に重視している。

（4）健康にかかわるコミュニティの創生の研究とは、同じ健康上の課題をもっているが、まだ、コミュニティを形成していない場合にコミュニティの形成を促し、支える支援に関する研究である。例えば、精神障がい者のセルフヘルプグループの立ち上げ支援、認知症家族の会結成への支援などである。

Ⅳ．コミュニティ看護学分野の教育の実際

1．コミュニティ看護学分野の授業科目の展開

コミュニティ看護学分野に該当する授業科目は５科目である（表２）。大別すると、概論、各論、研究指導の３つの内容に分けられる。コミュニティ看護学の

表２　目白大学大学院看護学研究科(修士課程)カリキュラム一覧（2014年度）

修了要件：30単位以上

科目名			単位数 必修	単位数 選択	配当年次	備考
共通科目	看護理論特論		2		1	（1）共通科目群の中から必修科目８単位のほか、２単位を履修すること。
	看護倫理特論		2		1	
	看護研究方法論		2		1	
	病態生理学			2	1	
	生涯発達心理学			2	1	
	保健統計学		2		1	
	臨床心理学特論			2	1	
	地域社会学特論			2	1	
	医療文化論			1	1・2	
	国際援助論			1	1・2	
	統合医療論			1	1・2	
専門科目	看護マネジメント分野	看護マネジメント特論１		2	1・2	（2）専攻分野の８単位、及びそれ以外の専門科目群と共通科目群のうち（1）で選択しなかった科目から４単位を履修すること。
		看護マネジメント特論２		2	1・2	
		看護マネジメント特論３		2	1・2	
		看護マネジメント演習		2	1・2	
	コミュニティ看護学分野	コミュニティ看護学特論１		2	1・2	
		コミュニティ看護学特論２		2	1・2	
		コミュニティ看護学演習１		2	1・2	
		コミュニティ看護学演習２		2	1・2	
	ウィメンズヘルス看護学分野	ウィメンズヘルス看護学特論１		2	1・2	
		ウィメンズヘルス看護学特論２		2	1・2	
		ウィメンズヘルス看護学演習１		2	1・2	
		ウィメンズヘルス看護学演習２		2	1・2	
	特別研究	特別研究（看護マネジメント分野）		8	1～2	専攻分野の８単位を履修すること。
		特別研究（コミュニティ看護学分野）		8	1～2	
		特別研究（ウィメンズヘルス看護学分野）		8	1～2	

備考：文献２）より引用

概論として、地域看護学でキーワードとなっている概念、コミュニティ看護学分野の中心概念であるヘルスプロモーション、家族看護学の理論などを扱う授業科目が「コミュニティ看護学特論１」である。次の３つの授業科目は各論に該当する。まず、ヘルスプロモーションの活動の要である健康学習・健康教育の理論について学習し、さらにライフサイクル別、活動の場別の環境、健康問題、支援を学ぶ「コミュニティ看護学演習２」である。次に、高齢者ケアについて各種の統計、論文等から、現状の課題を明確にし、合せて、ケアにおける多職種間の連携や支援システムを扱う「コミュニティ看護学特論２」である。そして、社会的ネットワークやソーシャルキャピタルから社会の問題を学び、コミュニティにおける健康課題についてフィールドワークを通して自らの研究課題を明確化するとともに、文献クリティークの方法を学ぶ「コミュニティ看護学演習１」である。５つ目の授業科目「特別研究（コミュニティ看護学分野）」は個別指導、分野全体指導等で研究指導を行っている。なお、これらの授業の内容は、各年度の院生のレディネスに合わせて展開方法を工夫して実施している。

各授業科目の現行の実際は以下のとおりである。

（１）コミュニティ看護学　特論１　　２単位

ヘルスプロモーションに基づくコミュニティ看護実践の方法論を理解し、効果的な支援方法およびコミュニティで活動する看護職の機能について探求している。コミュニティの看護を探求するために、コミュニティの定義、健康の概念、ヘルスプロモーションの概念、カルガリー家族看護理論、健康とソーシャルキャピタルについて理解し、コミュニティに関連する文献のクリティークを行っている。

（２）コミュニティ看護学　特論２　　２単位

コミュニティにおけるケアについて、高齢者ケアを取りあげ、保健･医療･福祉統計や社会統計、ケアについて書かれた論文等から現状の課題を明確にしている。そのうえで、高齢者の自立支援および介護予防、看護をめぐる諸問題や高齢者の権利とアドボカシーに関する課題、ケアにおける多職種間の連携や支援システム等、多岐にわたる現存課題と支援について探求している。

（３）コミュニティ看護学　演習１　　２単位

コミュニティにおける健康課題についてフィールドワークを通して考察し、自らの研究課題に近づけることができるようにしている。また、社会的ネットワークやソーシャルキャピタルに関する文献を精読することから社会の問題を考察している。コミュニティを対象とする研究論文をクリティークすることができるようにしている。

（４）コミュニティ看護学　演習２　　２単位

授業内容は、１．健康学習と健康教育の理論の学習、２．ライフサイクル別（乳幼児、学童、思春期、青年期、壮年期、老年期）に国内外の社会的環境と健康問題の動向・支援の学習、３．看護活動の場別（地域、家庭、職場、学校等）の健康問題と健康支援についての学習に大別している。この３部について１回ずつ各院生が関心のあるテーマに基づいてプレゼンテーションを行い、討論し、最後に教員がコメントするようにしている。最終的にレポートの提出を課している。授業の内容を中心概念であるヘルスプロモーションの概念から考えると、主として健康教育に関する内容であり、前述のヘルスプロモーションの活動分類では、④個人技術の開発、プロセス分類では、③能力形成の内容に該当している。また、社会的環境については、活動分類②健康を支援する環境づくりに該当している。

（５）特別研究（コミュニティ看護学分野）８単位

コミュニティには様々な活動の場があり、研究対象は地域社会の多様性を含めた中から、各院生の問題意識に基づき決定し、コミュニティの課題に貢献できる研究目的が創出されている。

前述のように、コミュニティ看護学分野では組織的に学際的な指導体制をとっていることに特徴がある。特別研究は８単位で２年間または３年間の履修期間を通して開講している。１年生前期では４月の当初からの３回の授業で、特別研究のオリエンテーション、各院生による研究テーマの発表とディスカッションを１年生受講者全員と教員全員（７名）で分野合同ゼミを実施している。個別指導の日程を挟んで、さらに６月には再度、各院生による研究テーマの発表とディスカッション１回と研究テーマに関連する文献のクリティークの発表会を開催している。その他の日程では個別

指導を行っている。１年生後期には個別指導の他に２回の研究計画書の発表会を受講者全員と教員全員で行っている。また、２年生、長期履修生の分野全体での指導への参加や研究科全体の企画である、論文構想発表会や修了予定者による研究発表会への参加によって、研究のすすめ方や修士論文の作成過程を学べるようにしている。２年生と長期履修生に対しては個別指導の他に前期に３回、後期に２回、受講者全員と教員全員（７名）での指導の日を設けて学際的な指導を行っている。

（６）コミュニティ看護学分野での特別講義

授業科目ではないが、コミュニティ看護学分野での特別講義を毎年２回開催している。がん専門看護師による講義、質的研究に関する講義、首尾一貫感覚（Sense of Coherence）に関する講義など、院生の研究テーマの関連したもの、研究方法に関するもの、トピックスなどの内容である。

２．学修者の状況

コミュニティ看護学分野では、院生として「保健・医療・福祉における看護の専門性を高めたい。看護師・保健師としてスキルアップしたい。」という方を対象としている[3)]。看護学研究科への入学資格は、看護師、保健師、助産師のいずれかの有資格者である。入学希望者のほとんどは現場での実践家や看護系の教員であり、それぞれの立場でブラッシュアップを目指している方を大学院で受け入れている。看護の臨床（病院、訪問看護ステーション、福祉施設、市町村、保育所、学校、企業など）で勤務している院生は現場での看護に関わる現象を明らかにすることに取り組んでいる。院生は自らの問題意識を研究に高める努力をしている。また、院生は社会人がほとんどであり、看護系学校でカリキュラムに地域看護学や在宅看護論が導入されていない時代の学生である。コミュニティ看護学分野では院生のこの特徴に配慮した授業展開を行っている。

コミュニティ看護学分野の修了生の将来の進路は市町村および保健所、訪問看護ステーション、地域包括支援センター、病院、保育所、学校、企業などの地域諸機関におけるコミュニティ看護学分野の実践者、管理者、看護師・保健師教育機関の教員として活躍することが期待されている[2, 3)]。

３．成果としての修士論文

看護学研究科開設から2014年３月末までの１期生～４期生の内、コミュニティ看護学分野では17名が修了している。その修士論文のテーマ[16)]を前述のコミュニティ看護学研究の視点の４つで分類し、表３に示した。（１）コミュニティを構成している人々の特徴に関する研究が最も多く、９編であった。病気の子どもを持つ親、障がい者の家族、看護師など、対象理解に関する研究である。（２）コミュニティにおける看護活動や支援活動に関する研究は４編であった。高齢者施設での利用者に対する職員の対応、学校での養護教諭の経験、保育所での看護職者の心理と対応に関する研究である。（３）コミュニティとコミュニティとの連携およびシステムづくりに関する研究も４編であった。継続看護システム、医師と看護師の共働、看護職と他職種との連携や業務の比較に関する研究である。（４）健康にかかわるコミュニティの創生に関する研究に該当する修士論文はなかった。フィールドを確保する段階から行うには２～３年の在学期間では時間的に困難であるからと考えられる。修士論文のテーマは、院生の主体性を尊重し、関心のある現象を深められるようにしている。修士論文のテーマから、「まず、コミュニティを構成する人々がどのような特性があるかを知ることから研究を進めたい」という傾向が考えられる。

４．教員による共同研究

前述の「保健医療村」構想は、現在、看護学研究科教員メンバーとＡ病院のメンバー、元研究科教員、さらに、本学他学部教員も加わった共同研究の形で、その理念が継承されている。コミュニティ看護学分野の教員が研究代表者となり、研究プロジェクトを研究科開設から１年後に開始した。コミュニティにおけるがん療養者と家族のヘルスプロモーションに着目した。研究テーマはキャンパスの周辺地域の健康課題とケア提供体制を分析し、がん療養者とその家族への支援に関する研究とした。これまでに、「地域における医療提供側の連携とがん療養者とその家族への支援についての調査」[17, 18, 19)]、「がん療養者とその家族に対する調査」[20, 21, 22)]、「がん療養者とその家族に対する健康教室（太極拳）の実施」[23, 24)]を行い、その研究成果を報告してきた。現在は、「がんピアサポートに関する研究」に取り組んでいる。これらの一連の研究

表３　コミュニティ看護学分野の修士論文のテーマ（１期生～４期生）

（1）コミュニティを構成している人々の特徴に関する研究

1．子どもの手術に関する医療者からの説明後の親のコントロール感および子どもへの説明の実態と関連する要因
2．首都近郊の団地に住むひとり暮らし高齢者の人づきあいの思い
3．二分脊椎症で導尿の必要な子どもをもつ母親の「支えられた思い」と「支えてほしい思い」
4．女性労働者の予防的保健行動の検討
5．精神障がい者のきょうだいのQOLに関する研究
6．精神科看護師のストレスと自己効力感
　―精神科看護師の経験、年代別ストレスと自己効力感の関係―
7．青年期から壮年期にある筋ジストロフィー患者の人との関わりについての思い
　～患者の語りから～
8．口腔ケアに対する高齢者と看護師の認識
　―看護に患者の意思は尊重されているのか・アドバンス・ディレクティブからの視点も含めて―
9．救急医療領域に配属され働く看護師の心理・精神的馴化；habituation

（2）コミュニティにおける看護活動や支援活動に関する研究

1．施設に保護された被虐待高齢者に対する職員の対応
2．１型糖尿病を持つ児童生徒を支援する養護教諭の経験
3．保育園における看護職の保健活動上の困難と対応
　―感染症対策に焦点をあてて―
4．保育所看護職者が抱く困難感と対処行動

（3）コミュニティとコミュニティとの連携およびシステムづくりに関する研究

1．埼玉県Ａ地区における終末期がん患者の継続看護システム構築化への取り組み
　―病院看護師の支援状況と今後の課題―
2．終末期がん患者の在宅移行期における医師と看護師の共働に関する現状と課題
3．知的障害者施設における看護職員と生活支援員の連携・協働に関する認識
4．地域包括支援センターの業務と専門職性との関係
　～看護職・社会福祉士・主任介護支援専門員における業務の比較～

（4）健康にかかわるコミュニティの創生に関する研究

該当なし

合計17編

備考：文献16）より引用

はコミュニティ看護学研究の視点から分類すると、順に「地域における医療提供側の連携とがん療養者とその家族への支援についての調査」は、（2）コミュニティにおける看護活動や支援活動に関する研究、と（3）コミュニティとコミュニティとの連携およびシステムづくりの研究に分類される。「がん療養者とその家族に対する調査」は（1）コミュニティを構成している人々の特徴の研究に該当する。がん療養者とその家族に対する健康教室の実施は（2）コミュニティにおける看護活動や支援活動の研究に当たる。「がんピアサポートに関する研究」は現在のところ（1）コミュニティを構成している人々の特徴の研究に該当しているが、今後の方向性によっては（3）コミュニティとコミュニティとの連携およびシステムづくりや

（4）健康にかかわるコミュニティの創生の可能性を持っている。

Ⅴ．課題と展望

コミュニティ看護学分野としての教育・研究は５年以上の実績を重ねた。院生たちのほとんどが社会人のため、復習・予習のための十分な時間がないのであるが、特論や演習で学んだことを、各々の実践経験と各々が抱いている研究課題に結び付け、研究としていかに具現化出来るか必死に取り組んでいる。前述のように、修士論文には、コミュニティ看護学分野の教育目的の中に示されている「地域保健医療福祉システムの推進」に直結している「コミュニティとコミュニティとの連携およびシステムづくり」の研究は少なく、「健康にかかわるコミュニティの創生」の研究はまだ出ていない。これらはコミュニティ看護学分野の特徴的で重要な研究課題であり、将来増加することが望まれる。今後、充実させるために教育内容や教育方法を検討していきたい。また、コミュニティ看護学分野では各看護学を専門とする教員チームでの教育が特徴であるので、その意義を明らかにするための評価に取り組みたいと考えている。さらに、上述のがん療養者とその家族への支援に関する教員共同研究をより一層進めて、病院、診療所、訪問看護ステーション、患者団体、県、市町村および保健所、地域包括支援センターなどの地域諸機関で活躍している方々と協働し、地域に貢献できるように努力するとともに、院生の教育の一助にしたいと考えている。

Ⅵ．おわりに

目白大学大学院看護学研究科のコミュニティ看護学分野は専門分野が異なる教員がチームを組み、組織的に学際的な指導体制をとっていることが特徴である。担当教員は多様な看護分野等の専門を生かし、中心概念を基に学際的な指導を今後とも積極的に行い、院生の指導を通して、看護活動の改善に貢献していきたい。

【文献】

1）目白大学大学院看護学研究科設置準備委員会　資料（2008）

2）目白大学大学院ホームページ　https://www.mejiro.ac.jp/　（閲覧日2014年９月15日）

3）目白大学大学院入学案内　2014年度版（2014）

4）目白大学大学院看護学研究科　院生便覧　2014年度版（2014）

5）目白大学大学院看護学研究科　2014年度　シラバス（2014）

6）目白大学大学院看護学研究科　入学案内　パンフレット（2014）

7）MacIver, M R.：Community: A　sociological study, being an attempt to set out the nature and fundamental laws of social life. Macmillan & Co. 1917; Frank Cass, 4th ed.（1970）　中久郎，松本通晴：コミュニティ　ー社会学的研究：社会生活の性質と基本法則に関する一試論．ミネルヴァ書房　（2009）

8）仁科伸子：包括的コミュニティ開発―現代アメリカにおけるコミュニティ・アプローチ．４−５，御茶の水書房（2013）

9）植村勝彦：コミュニティ心理学入門．７，ナカニシヤ出版（2007）

10）日本ヘルスプロモーション学会：http://www.jshp.net/HP_kaisetu/kaisetu_head.html　（閲覧日2014年９月28日）

11）産業医科大学大学看護学研究科：http://www.uoeh-u.ac.jp/graduateschoolofmedicalscience/graduateschoolofmenu/kangogaku.html（閲覧日2014年10月１日）

12）Hunt, R: Introduction to community-based nursing. 5th ed. 9　Wolters Kluwer Health /Lippincott Williams & Wilkins（2013）

13）Lynd, R: Knowledge for what? The place of social science in American culture.Princeton: Princeton University Press.（1939）

14）Spradley, B: Community health nursing: concepts and practice. 2nd ed. 345 Boston: Little Brown.（1985）

15）Josten, L: Wanted: Leaders for public health. Nursing Outlook 37 230−232（1989）

16）目白大学：目白大学大学院看護学研究科修士課程修士論文テーマ例　https://www.mejiro.ac.jp/graduate/nursing/m_nursing/thesis.html　（閲覧日2014年９月24日）

17）安齋ひとみ，川田智恵子，糸井志津乃，五十嵐美和，阿部八千代，渡邊明美，風間眞理，刀根洋子，堤千鶴子，鈴木祐子，小林紀明，奈良雅之，吉田由美：埼玉県Ａ地域「がん対策実態調査」報告　第１報　医療提供側の連携の現状．日本公衆衛生雑誌 59（10），222（2012）

18）　吉田由美，安齋ひとみ，川田智恵子，風間眞理，鈴木祐子，糸井志津乃，堤千鶴子，刀根洋子，阿部八千代，五十嵐美和，渡邊明美，奈良雅之，小林紀明：埼玉県Ａ地域「がん対策実態調査」報告　第２報　がん療養者への支援の現状．日本公衆衛生雑誌 59（10），222（2012）

19）安齋ひとみ，吉田由美，川田智恵子，刀根洋子，堤千鶴子，糸井志津乃，風間眞理，小林紀明，奈良雅之，鈴木祐子，五十嵐美和，渡邊明美，阿部八千代，原彰男：埼玉県Ａ地域における医療連携とがん療養者・家族への支援．目白大学健康科学研究　７，39−44（2014）

20）風間眞理，鈴木祐子，刀根洋子，堤千鶴子，奈良雅之，渡邉明美，五十嵐美和，阿部八千代，小林紀明，糸井志津乃，吉田由美，川田智恵子，安齋ひとみ：がん療養者とその家族が持つ健康問題とニーズ　第１報　日本公衆衛生雑誌　60（10），293（2013）
21）鈴木祐子，風間眞理，刀根洋子，堤千鶴子，奈良雅之，渡邉明美，五十嵐美和，阿部八千代，小林紀明，糸井志津乃，吉田由美，川田智恵子，安齋ひとみ：がん療養者とその家族が持つ健康問題とニーズ　第２報　日本公衆衛生雑誌　60（10），294（2013）
22）鈴木祐子，風間眞理，刀根洋子，堤千鶴子，奈良雅之，五十嵐美和，阿部八千代，小林紀明，糸井志津乃，吉田由美，川田智恵子，安齋ひとみ：Ａ地区コミュニティにおけるがん療養者を支えている家族に関する認識．日本公衆衛生雑誌　61（10），343（2014）
23）奈良雅之，小林紀明，刀根洋子，堤千鶴子，安齋ひとみ，吉田由美，糸井志津乃，風間眞理，鈴木祐子，川田智恵子，原彰男，五十嵐美和，渡邊明美，阿部八千代：がん療養者に対する太極拳の効果に関する最新の研究動向．目白大学健康科学研究　６，１－６（2013）
24）奈良雅之，小林紀明，刀根洋子，堤千鶴子，安齋ひとみ，吉田由美，糸井志津乃，風間眞理，鈴木祐子，川田智恵子，五十嵐美和，阿部八千代：Ａ地区コミュニティにおけるがん療養者のための健康づくり活動の試み．日本公衆衛生雑誌　61（10），344（2014）

（2014年10月８日受付、2014年11月21日受理）

The Current Situation and Issues in the Education of the Graduate Students in the Community-based Nursing Master Course in the Graduate School of Nursing, Mejiro University

Chizuko TSUTSUMI[1)] Yumi YOSHIDA[1)] Hitomi ANZAI[1)] Mari KAZAMA[1)] Shizuno ITOI[1)] Tsuyoshi NISHIKATA[1)] Hideki YAMADA[1)] Yoko TONE[1)] Katsutoshi HARADA[2)3)] Chieko KAWATA[2)4)]

【Abstract】

Objectives: To clarify the present situation and issues in the education of the graduate students in the Community- based Nursing Master Course in the Graduate School of Nursing, Mejiro University.

Methods: Information was retrieved from the website of Mejiro University and documents of its Graduate School of Nursing since the preparation for the establishment of the school. Furthermore, discussions were held among all academic staff members from this field. The study was conducted from April to September 2014.

Results: The Community-based Nursing Master Course is focused on community in local communities and institutions. The course aims at improving nursing practices through interdisciplinary analysis from the standpoint of academic nursing. The main concept of the course is “Health Promotion.” The faculty members, with various specialties in nursing, got together and collaborated on education and studies. A total of 17 Master’s theses have been produced over the past 5 years. There were nine theses on the characteristics of community members, four on cooperation and the system, and four on nursing practice and other support activities in the community. There were no theses on organizing a health-related community.

Conclusions: The themes of cooperation, system, and organizing a health-related community are important for the Community-based Nursing Master Course. Therefore, we are working to develop and improve the content and methods in our educational program. It is our hope and goal that academic staff members continue to contribute to nursing practice in interdisciplinary education for graduate students through their individual specialties and in accordance with the main concept "Health Promotion".

Keywords　Community-based Nursing Master Course　Graduate School of Nursing　Curriculum　Master’s theses　Health Promotion

1）Graduate School of Nursing, Mejiro University　2）Former Graduate School of Nursing, Mejiro University
3）Ibaraki Asunaronosato Hospital　4）Graduate School, Wakayama Medical University